



学校だより

未来につながる学びを拓く

校長 北 典 子

6月1日に学校が再開されて2か月。6月中は、今までと違う感染症対策を行うという制限のある中で、学校生活に、子どもたちも教職員も戸惑うことが数多くありました。7月に入り、ほぼ通常通りの授業スタイルと縦割り班の活動に戻しつつ、学校生活を過ごしています。各ご家庭においても、毎日の検温等の健康観察、手洗いやマスク着用の慣行や登下校の送迎に取り組んでいただきました。お蔭様で、今のところ安定した毎日が続いております。皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。そんな中、首都圏や関西圏、中京圏をはじめとする各地で、第2波を思わせるコロナ感染者が増加し、福井県でも「感染拡大注意報」が発令されました。今後も感染者増加の懸念を拭い去ることはできないようです。

いよいよ明日からは夏休みが始まります。12日間と日数も短く、コロナウィルス感染症予防で遠出や外出は慎重にならざるを得ない状況で、いつもの夏休みとはかなり違ったものになると思います。体調管理や健康管理に十分に気を付けて、12日間を計画的に過ごしてほしいと願っています。この2か月間の子どもたちの様子を見てみると、例年以上に落ち着いて学校生活を送っていると感じます。1年生から9年生までの各学年の授業や学校生活の様子、異学年交流の授業の様子などを紹介します。

前期課程では、1年生が学校探検に興味津々で取り組んでいました。現在は、名刺交換に夢中で、休み時間になると校長室の中にも並んで待っています。



2年生の給食配膳の様子

2年生の子どもたちは、ソーシャルディスタンスをしっかりと意識して給食の配膳を進めています。給食当番も自分の役割を果たしています。3年生は、発想が豊かで、社会



1年生の校長室訪問

創生プロジェクトでも活発に、テーマ「幸せって何だろう」を進めています。4年生は骨格標本作りでユニークな作品を作り上げ、音楽の時間には、美しくやわらかな歌声を音楽室に響かせています。5年生は造形の時間に、個性あふれる作品を創り、縦割り班活動でも積極的に下学年に働きかけています。6年生の社会創生プロジェクトでは、自分たちの取組を振り返ってわかりやすく5年生に説明し、5年生に助言するリーダー性を発揮していました。



3年生体育館で社会創生プロジェクト



4年生骨格標本作り



5年生「のぞいてみると」作品



6年生と5年生のラウンドテーブル

後期課程の教科の授業では、課題を探究するグループ活動が行われています。生徒たちは生き生きと意見を交換し合い、ホワイトボードに多様な考えをまとめています。部活動も再開され、4連休中には、運動部の9年生にとって最後の交流試合がありました。悔しい気持ちを切り替え、自分を奮い立たせて最後の試合に臨む9年生の心意気が伝わりました。どの部も満足いく結果が残せたのではないのでしょうか。また、先週から、最後の自己表現の場である体育祭・文化祭に向けて、団結して準備に打ち込んでいます。



8年生の授業風景

8年生は、授業はもちろん学年プロジェクトにも意欲的に取り組んでいます。校外に出られ



9年生の演劇活動開始



7年生の学年プロジェクトの様子



4年生と7年生の理科の合同授業



6年生と7年生のラウンドテーブル

ないという状況が続き、テーマ探究への障害が横たわる中、プロジェクトを進める工夫に熱が入っています。

7年生は、中学校生活にも慣れ、後期課程の第一歩である学年目標と3年間を見通すテーマづくりを進めています。108名が一丸となって学年の指針を議論していました。

また、義務教育学校の利点を生かし、4年生と7年生の理科の異学年交流授業が行われました。4年生は、6月から学んできた「電気のはたらき」、「生き物と温度」、「体のつくりと運動」の中から選択して、7年生に学んだことを発表しました。7年生は、身近な植物について発表しました。お互いが学んだ内容を発表し合う中で、改めて学んだことが確認でき、交流から学びの見通しが持てる本校の仕組みが、科学的な見方や考え方を育てていきます。

さらに、5年時から社会創生プロジェクトに取り組んでいる6年生は、今後の方向性について7年生に意見を求めるべく、合同のラウンドテーブルを行いました。両学年ともに、新しい視点を見つけ出そうと傾聴し合い、意見交流する姿が見られました。

こうした学びの拡がり、次の活動への意欲を生み出し、本校の『先輩に学ぶ』伝統と学校文化が継承されていくのだと思いました。このように、713名の子どもたちは、異例づくしの令和2年度の1/3を無事に、たくましく過ごし終えました。

コロナをきっかけに、学び方や働き方がオンライン化し、生活スタイルや価値観も変わりつつあります。改訂された学習指導要領では、「学びの先の生きる力」、「変化の激しいこれからの社会を生きる力」と記されています。先行き不透明な時代を生き抜くために、必要な力を子どもたちが身に付けていく場として、学校の役割や学びのあり方が重要になってくることでしょう。

これからのウィズコロナ時代を生きていくには、一人一人が知識を習得して活用できるだけでなく、コミュニケーション力、問題発見・解決力、分析力に加えて、仲間と協働して創造したり、表現したりする力が求められると考えます。それはまさに、本校が、長年に渡って築き上げてきた教員と子どもたちが対面しながら創り上げていく協働的・探究的な学びから培われていく力であり、今後一層求められる教育活動であると考えています。

「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものという。そして、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間をつくること、それが教育の目的といえよう。」

アルベルト・アインシュタイン

たった2か月間ですが、多彩で独創的な子どもたちの学びと活動に接し、アインシュタインの言葉をかみしめながら、一人一人の「知性+個性」が輝き、未来への学びを拓く学校を目指したいという思いが強まっています。

コロナの影響で、現在も107か国の各地域で、未だに全面休校が続いているそうです。こういう時代だからこそ、「世界の情勢を知ることができた」、「家族で乗り切るために時間を共有できた」など、「できた」ことを見つけていきましょう。ポジティブに考えるということは、「～だから〇〇できない」と考えるのではなく、「～だから◎◎できる」という風に発想を転換していくことによって生まれるものです。いろいろな側面から物事を考え、新しい気づきを得ることが、子どもたちの叡智につながると同時に、しなやかな強さを培うと考えます。そして、粘り強く、多角的に考え行動する若者に成長していく基盤になると信じています。

最後に、日数は短く、取り組むこともいつもと違う夏休みですが、子どもたちが安全に楽しく、思い出に残る12日間を過ごすことを願っています。8月17日に、元気に登校してくれることを楽しみにしています。

明日からの夏休み期間中に、是非、ご家族や友達と一緒に、
県立歴史博物館の「天下人の時代」
県教育博物館の「地図を見る、読む、楽しむ」と「教科書で教えられた伝染病」
市郷土歴史博物館の「東京1964こぼれ話」
などに足を運んでください。初めて知る事実に出会え、視野が広がります！！

